

平成 22 年度 第 1 回奈良市土地開発公社経営検討委員会会議録概要

開催日時	平成 22 年 9 月 2 日(木) 午後 3 時から午後 4 時 15 分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟 6 階 第 2 会議室
次 第	1 開会挨拶 (市長) 2 委員紹介 3 奈良市側出席者紹介 4 奈良市土地開発公社経営検討委員会設置要領説明 5 奈良市土地開発公社経営検討委員会議題 (1) 正副委員長選任について (2) 奈良市土地開発公社経営検討委員会の運営について (3) 奈良市土地開発公社の現状について (4) 意見交換 6 今後の日程説明
出席者	出席委員 5 人 (全員出席)、 市長、副市長、市長公室長、市長公室理事、建設部長、事務局 9 人
開催形態	公開 (傍聴人 3 人)
決定事項	委員長に出水委員を選任し、副委員長を黒石委員とした。 委員会の下部組織に具体的な調査を行う作業部隊を設置し、その調査プランについては黒石委員が提案する。
担当課	市長公室 行政経営課
議事の内容	
1. 開会挨拶 (市長) 委員の皆様におかれては、検討委員会を引き受けていただき誠にありがとうございます。土地開発公社の問題は、過去の問題の中でも市民が最も関心を持っているものであり、一部の所有する土地の時価が簿価の 100 分の 1 程度という状況であり、多くの市税を投入しなければならないと考えている。オープンに議論を進め、この公社問題を乗り越えて行かなければならないと思っている。	
2. 委員紹介 事務局より委員紹介が行われた。	
3. 奈良市側出席者紹介 仲川市長より出席者の紹介が行われた。	
4. 奈良市土地開発公社経営検討委員会設置要領説明	

委員長選任前であるため、中村市長公室理事が司会をつとめ、事務局より奈良市土地開発公社経営検討委員会設置要領の説明が行われた。

本日の委員会は5名全員が参加されているため、設置要領第6条2項に基づき成立することが確認された。

5. 奈良市土地開発公社経営検討委員会議題

(1) 正副委員長選任について

委員の互選により、出水委員長、黒石副委員長が選任された。

出水委員長

委員長に選任いただいた出水です。土地開発公社の問題は、全国的に以前からある問題である。少し資料を見たが奈良市においても、かなり問題があるのではないかと考えている。設置要領第2条の所掌事務が我々のミッションであるが、大事なのはスピード感であり、大胆なこともしなければならないと考えている。

(2) 奈良市土地開発公社経営検討委員会会議の運営について

奈良市土地開発公社経営検討委員会会議公開要領(案)について原案の通り承認され、また会議を録音することが了解された。

(3) 奈良市土地開発公社の現状について

事務局より資料1から10まで説明が行われた。

出水委員長

これらを踏まえ、今後の進め方について議論をいただきたい。

黒石委員

我々のミッションを踏まえると、より詳細な事実確認が必要と考える。タスクフォース型のワーキンググループを設置し、関係者へのヒアリングなど調査が必要と考える。

山形委員

基本的には、黒石委員の意見に沿って述べたい。一定の事実に基づき意見を述べるのが、専門的見地として求められている。過去の経営の調査について、ヒアリングも踏まえ一定の評価を行い、今後のあり方を考えることで実のあるものになると考える。

常峰委員

詳細な調査は、委員会ではなく別の場で行った方がよいと思う。

森委員

土地開発公社の問題については、過去に取得してきた土地の経緯や価格についても調べる必要があり、詳細に行うのは相当時間がかかる。どこまで、我々に求められてい

るのか。

出水委員長

いずれにしても、この委員会で調査するのは難しい。委員会は委員会として、調査報告のまとめや今後の方向性の検討を行う。委員会以外に調査を行うことには、反対の意見が無いようであるので、そのようにしたい。

過去に対する分析は、細かく粗捜しをするのではなく、今後のために、実際何が問題だったのかを洗い出すためにも大事であるとする。

山形委員

森委員の指摘の通り、調査をはじめるときが無い。ある程度優先順位を付けたり、委員長の指摘にあったようにスピード感を大事にして進めてゆく必要がある。市としての、委員会のスケジュール感をお伺いしたい。

市長

実際に調査をすると時間がかかると認識している。この会議に関しては、短期間で濃密な議論をお願いしたい。

概ね3ヶ月、来年度の予算へ反映するのであれば、本年中に結論をお願いしたい。

出水委員長

委員会としては、3ヶ月間、今年一杯を目処に進めたいと考えたい。

黒石委員

作業部隊を別にもつことで、個人情報等を守らなければならない調査ができると思うし、そのような調査が必要であるとする。しかし情報公開条例があるように、情報をオープンにすることは非常に大事であるので、3ヶ月の調査計画、内容、結果等を公開し、透明性を保つ必要があるとする。3ヶ月の濃密な調査スケジュールを別途事務局と協議しながら、委員皆様の理解をいただき進めて行けばよいとする。

出水委員長

今日は第一回であり、事前に内容を詰めていないが、黒石委員の考えで進めて行きたい。実態は別途調査し、その委員の責任のもと公開の場で報告するのが良いとする。

山形委員

具体的な進め方のプランが無くてはいけない。黒石副委員長は、作業手法のノウハウにたけていると思う。プランの素案作りをお任せしたい。

黒石委員

政党や国の機関に対する調査の委員や、調査の事務局を行ってきた経験があり、作業プランのたたき台をお示ししたい。

森委員

お願いしたい。

黒石委員

常峰委員は、包括外部監査に関わっていたようであるが、調査に有益な資料等の示唆をいただけるとありがたい。

常峰委員

包括外部監査などで整理している資料があると思う。既存の資料を活用させていただければ、手間を省くことが考えられる。

出水委員長

設置要領にあるとおり、委員会に関係者の資料の提出をお願いしたい。また、タスクフォースについても資料の提供をお願いしたい。

森委員

全国的に土地開発公社は清算されている。財政状況上、清算できない自治体もある。市として、土地開発公社を保有している現状を踏まえ、必要性についてお聞きしたい。

市長

必要性については、この委員会の中でご議論いただきたいと考えている。清算も一つの選択肢と庁内で議論している。建設事業では、用地の先行取得も便宜上必要と考えている。用地を取得する機能を公社に置き続けるべきか、様々な手法を検討したい。

建設部長

立場上、特に道路事業など線の整備では、地権者との交渉の中で先行取得が必要であると感じている。

森委員

平成20年度の事業報告書では、ほとんど短期借入である。包括外部監査の報告書では、長期借入でファイナンスされている。短期借入中心にした理由を教えて欲しい。

市長

後ほど確認し、委員にメール等で共有させていただく。

黒石委員

期間が3ヶ月ということである。次回まで調査を進めてゆくのか、次回に調査方法を定めるのか、また、今後の日程調整をどうするか。

常峰委員

黒石委員にプランニングいただき、それに基づき役割分担をさせていただきたい。

出水委員長

今後の日程については、この後打合せを行い定めたい。
本日の委員会は、ここで終了する。

以上

